

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 3 区分

【発行日】平成 25 年 7 月 11 日 (2013.7.11)

【公開番号】特開 2009-61584 (P2009-61584A)

【公開日】平成 21 年 3 月 26 日 (2009.3.26)

【年通号数】公開・登録公報 2009-012

【出願番号】特願 2008-209141 (P2008-209141)

【国際特許分類】

B 2 4 B 37/24 (2012.01)

H 0 1 L 21/304 (2006.01)

【F I】

B 2 4 B 37/00 Q

H 0 1 L 21/304 6 2 2 F

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 25 年 5 月 27 日 (2013.5.27)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 8】

本発明のさらなる実施態様が図 5 に示され、要素 4 0 4 及び 4 0 8 の不規則に離間した相互接続四面格子を有する研磨層 4 0 2 からなる。すべての要素 4 0 4 及び 4 0 8 は、接合部 4 0 9 で結合する長さ及び幅が同じに示されているが、そうでなくてもよい。図示する実施態様では、単位セルは、四面それぞれが正三角形であり、その辺がネットワークのピッチ 4 1 8 である規則的な四面体であり、幅 4 1 0 を有する固体部材が空間単位の四つの縁のみに沿って延びて、各三角面の中心及び空間単位の中心を全体として空にしている。四面体格子の対称性のために、図 5 の断面平面図は同じ網状パターンを形成するであろう。三角形にファセット形成された多面体は非変形性であるため、この研磨テキスチャは可能な最高の剛性を提供する。構造が摩耗すると、要素 4 0 8 上に自由端が形成され、この自由端が局所変形性及び加工物へのコンプライアンスを提供する。図 5 に示す実施態様では、四面体ネットワークは、ネットワークのどの面もウェーハとの接触面に対して正確に平行には配置されないよう、わずかにくさび形のベース層 4 4 0 の上に構築されている。所与の時点で、部材 4 0 6 のサブセットだけがその最長寸法に沿って摩耗し、接触面積の大部分は、より短い寸法にわたって摩耗する要素の接触面積（すなわち研磨面の平面における横断面積）4 2 2 によって提供される。これは、接触面積が研磨層又は研磨要素 4 0 6 と研磨テキスチャ 4 0 0 の半高さ 4 1 5 との間の高さ 4 1 4 の方向で本質的に不変である特徴を提供する。場合によっては、ベース層 4 4 0 は、一連の反復するくさび形部分がネットワークを支持するような段を設けられる。図 5 に示す構造はほぼ一つの反復単位である。図 2 のパッドと同様に、接着剤層 4 4 5 がベース層 4 4 0 を省略可能なサブパッド 4 5 0 に固定し、場合によっては終点感知装置 4 7 0 を含む。